

## 令4-01 ダイバーシティ推進委員会議事メモ

日 時 令和4年5月23日(月) 9:00 ~ 9:47  
場 所 オンラインにて開催  
出席者 村田副学長(委員長)、森脇、國仲、小畑、宮田、江藤、水谷、駒田、福崎、下村、  
原各委員  
欠席者 小川、宇野各委員  
陪席者 盛人事労務チーム副課長、山本人事労務チーム副課長、中島ダイバーシティ推進  
室副室長、木村同室員、落合同室員

本年度から男女共同参画推進委員会からダイバーシティ推進委員会となり、ダイバーシティ推進室に2名の兼務教員が加わったことの紹介と第1回の委員会であることから、各委員から自己紹介があった。

### ○協議事項

#### 1. 三重大学のダイバーシティに関する取り組み方針の策定について

委員長から、資料1-1により、本資料は5月13日に開催された執行部の企画経営会議において本学のダイバーシティに関する取組方針の策定について検討された際の資料であるとの紹介があり、先ず「策定理由」について、本学第4期中期計画に掲げた「ダイバーシティに関する取組推進」のためには、未策定である全学的な指針（具体的な数値目標を含む）を定めて、それに向けての方策を考えていく必要がある旨説明があった。次に、「策定に際しての検討内容」については、理想とする教員構成の姿、つまり理念を考えること、次に目標とする数値と人数については、女性教員数と若手教員数そして外国人教員数という3つの方針について考える必要があり、このことは、「今後の進め方」にあるように、理想とする理念と数値目標についてダイバーシティ推進委員会で検討して案を考えるようにとのこととなっているとの説明があった。続いて、資料1-1の参考として掲載した政府目標等及び教員年齢構成表の説明、女性教員比率の策定（試算）及び資料1-3にある試算のための基礎資料による各部局毎の女性教員の採用計画数と採用比率、一般事業主行動計画を踏まえ、今後、具体的な目標と対策・取組を記載して作成することになる第4期のダイバーシティ推進実施計画（仮称）の参考例（資料1-2）についての説明があった。なお、令和4年度の活動計画として、資料1-2の目標1と、4から7に記載された対策・取組の中から実施可能なものについて進めていきたい旨提案があり、審議の結果、了承された。

最後に、委員長から女性教員については全体としては受け入れられつつあるが、これを各学部での具体的な数値になった時に受け入れていただけるか、インセンティブあるいはペナルティの付加などについての執行部の方針がどのようになるのかは分からないが、若手教員及び外国人教員のことも含めて理念と数値目標を本委員会で考える必要があるということを確認いただきたいと発言があった後、次の質疑応答が行われた。

Q: 資料1-1の令和8年度の目標達成に必要な女性教員採用並びに採用割合にある人文学部45%とは、その時までの採用する人数のうち45%を女性とするという目標か。

A: 国の目標として45%となっているので、試算した時には、11名採用していただくと41%でよいということで、令和8年度までに定年等で退職される先生方の後任人事の際には女性を半分近く採用していただくと良い感じになる。

Q: 2点ほど気になることがあって、1点目は、人文学部の実態として法律経済学科が半

分で社会科学の要素が入っており、男性の比率が高くなる可能性がある中で全て人文学部は45%として整理してしまうことはどうなのかということ。2点目は、40%以上の採用となると、明らかに女性限定ということにしないと難しくなってくるということが予想され、そうなるとうちは男性差別というような問題が出てこないか危惧されるので、学部で了承を取り付けることは結構難しいと考える。30%ぐらいというのと45%とでは違いが大きく、人文は女性教員が多いから大丈夫だろうと思われるかもしれないが、あるところを超えると厳しいと感じる。

A:現在の段階では何パーセントにするかは決まっているわけではなく、全体像とそれを学部の採用人事の中でどう配分していくかが一番の問題で、各学部の考え方にフィードバックできて初めてこの数値を達成できると考えている。この案はたたき台なので、そういうご意見をいろいろ聞いておくと反映できやすくなると思う。

続いて、原委員から、以下の補足説明がなされた。

- ・事の経緯として、毎年文科省の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」という補助事業があり、令和4年の募集が出た4月に役員から「うちは応募しないのか」という話があった。しかし募集要項では、大学としてダイバーシティに関する指針とか考え方を整理して公表することが条件となっているが、現状、三重大学にはそういうものが無く、来年応募するかどうかは別として、学長はじめダイバーシティに力を入れていくことを公言しているのに、大学としての指針が無く目標も立てられないという話になり、今回の事項になった。

- ・もう一つは、今年度から男女共同参画推進委員会からダイバーシティ推進委員会に変わったが、実際には男女共同の延長なので、指針を作るにしても（室では）女性研究者のことしか考えていないと学長に話したところ、「名前が変わったのだから、これまでに加え若手研究者とか外国人等、所謂ダイバーシティが世間一般に言われる定義を含めて委員会で議論してほしい」という話が出てきた経緯がある。

- ・先程、人文学部の45%という目標数値について話が出たが、確かに人文学部は完全な文学系ではないので若干修正は必要とは思いますが、この数字自体は政府の閣議決定で決まったもので、それを今回目安として機械的に計算したものとご理解いただきたい。ただ、今の三重大学の現状では政府目標すら届かない状況なので、先程、話が出た女性ありきの公募にしなければいけないという話になってしまうが、どうするのかということについても学長からは、「三重大学は少し遅れている点があるので、他大学の取組みも踏まえて検討してほしい」と言われている。したがって、他大学で結構行われている「女性優先の採用」についても取り組んでやることも委員会として議論いただければ良いと思う。

- ・スケジュール的には、資料に7月頃とあるがこれは事務方のメモであって、学長はしっかり議論して、あんまり遅くは困るが、年内若しくは年度内という言い方をされていた。各部局でいろいろな事情がある中で、こういう方針とか考え方であれば共感できるという範疇を固めて賛同いただかないといけないので、落としどころを考える反面、ある程度理想的なものを考えていかないといけないので、回数的には今までより頻度を上げなければいけないが、少し時間をかけて議論していただければと思っている。

委員長からは、昨年度からダイバーシティに舵を切っているので、先ずは簡単でもいいから理念なり宣言なりをまとめて、それに数字がついていけるような形でやっていければよいと考えるが、今回は第一回目の委員会ということで現状をご理解いただいて、今後、この数字でいいのかということやいろいろな形、方向から各学部の先生方に考えていただいた上でないと表明は出来ないのでは、そのあたりからやっていきたいとの発言があった。

## 2. フレンテみえとの連携について

委員長から、資料はないが昨年オンラインと一部対面で実施した三重県男女共同参画センターフレンテみえの「フレンテまつり」について、今年度は全てオンラインで実施するとの連絡が入った旨報告があり、本学はこれまで協力機関として、本学の男女共同参画推進の活動・取組みを紹介してきたことから、今年度も活動内容等について特設サイトでの「展示」を行いたいとの提案があり、了承された。

## 3. その他

なし

## ○報告事項

### 1. 育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成について

委員長から、資料 2-1 により、本学教員が出産・子育て又は介護と研究の両立のため支援する研究補助者雇用経費助成事業について、今年度前期分については助成期間が 4 月 1 日からのため、3 月に 12 名の教員に対して助成を決定したこと及び昨年度委員会で検討いただいた方針のとおり実施したが、申請者が多かったことにより今回の助成率が申請額に対して 70%であったことの報告があった。続いて、資料 2-2 の昨年度後期助成対象者からの報告書(11 件)について、全て両立支援の効果が得られたとの内容であり、今後の事業継続を望む声が多いが、配分額の増額を望む声もあるため、引き続き予算の増額について財務部と折衝していくとの発言があった。

### 2. 令和 4 年度教養教育「男女共同参画と多様性」授業について

委員長から、令和 4 年度教養教育「男女共同参画と多様性」授業について、資料 3 のとおり実施していることの報告があった。なお、現在学外のゲストスピーカー 3 名による授業を含む 5 回が終了し、今後委員の皆様への授業となるのでよろしくお願ひしたいと依頼がなされた。また、受講者は本学の学生 36 名と天津師範大学の留学生 16 名の 52 名となっており、本学の学生は対面であるが、天津の学生はコロナの影響で中国からのオンラインでの受講となるため、ハイブリッドの授業となっているとの補足説明があった。

### 3. 三重大学男女共同参画推進委員会報告書2021 について

委員長から、資料 4 により、昨年度の活動についてホームページに掲載していることの報告があり、ご覧いただき、こんな活動もできるのではというご意見や、ダイバーシティになったのだからもっと違うことをした方が良いというような提案、新しいアイデアをいただければありがたいとの発言があった。

### 4. その他

ダイバーシティ推進室から、次回委員会については 6 月末か 7 月頃ぐらいを考えているとの発言があり、委員長から、次回までにダイバーシティ推進の理念等についてそれぞれお考えいただき、数値目標についてもどういう風に考えればよいかというあたりも頭に入れておいていただきたいとの依頼がなされた。

以上